



名大トピックス

No.121 平成15年6月30日発行 名古屋大学総務部企画広報室 編集 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Tel(052)789-2016
ホームページ URL <http://www.nagoya-u.ac.jp>

大学院情報科学研究科の入学式が行われる



特集

新名誉教授のことば(11～18頁)

CONTENTS

大学院情報科学研究科入学式及び看板上掲式が行われる.....	2	鳥脇名誉教授が文部科学大臣賞を受賞.....	10
高等研究院創設一周年記念式典・講演会・祝賀会が行われる...	3	特集 新名誉教授のことば.....	11
名誉教授称号授与式・懇談会を開催.....	4	本学で東海地区国立学校等初任職員研修を開催.....	19
附属農場に併設された「農業館」の銘板上掲式が行われる.....	5	今年度の学校見学が始まる.....	20
		平成15年度における教育研究施設の充実.....	21
		[INFORMATION]	
 金融システム再生への細く険しい道を求めて		「日本数学コンクール」開催.....	24
家森信善.....	6	名古屋大学数学公開講座「数学アゴラ」開催.....	24
上出太陽地球環境研究所所長が英国王立天文学士院賞を受賞.....	8	本学関係の新聞記事掲載一覧(15年4月・5月分).....	25
博物館が特別講演(第22回・第23回)を開催.....	9	平成14年度職員創作美術展 作品紹介.....	29
平成15年春の叙勲・褒章受章者決まる.....	10		



大学院情報科学研究科入学式 及び看板上掲式が行われる

大学院環境学研究科に次ぐ二番目の文理融合型の独立研究科として、大学院情報科学研究科（博士前期課程及び後期課程）が本年4月1日に発足し、その入学式が4月23日（木）シンポジオンホールにおいて行われました。

入学式では、松尾総長が歓迎のことばを述べ、次いで、薄葉季路さん（計算機数理科学専攻後期課程）が入学生総代として力強く宣誓を行いました。

同研究科の今年度の入学者数は、164名で、各専攻

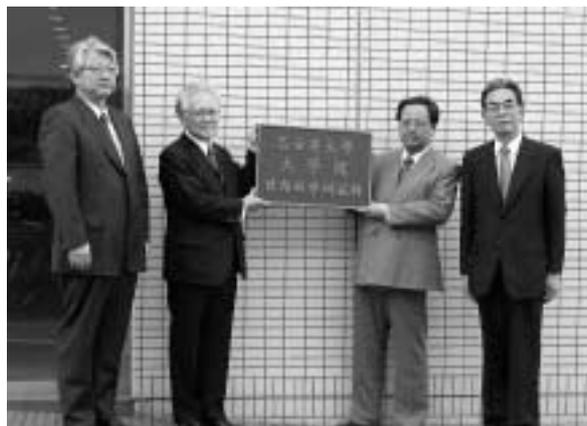
の入学者数は、計算機数理科学専攻20名、情報システム学専攻24名、メディア科学専攻36名、複雑科学系専攻50名、社会システム学専攻34名です。

また、5月16日（金）には、同研究科の看板上掲式が行われました。

式には、松尾総長、伊藤副総長、神谷研究科長、渡橋事務局長のほか学内関係者約20名が出席し、総長から新研究科の今後の充実・発展を期待するとのあいさつがあった後、看板の上掲が行われました。



入学生総代として宣誓する薄葉季路さん



大学院情報科学研究科の看板上掲式



高等研究院創設一周年記念式典・ 講演会・祝賀会が行われる

高等研究院は、平成14年4月に学内措置により創設されましたが、5月1日（木）創設一周年を記念し、シンポジオンホールにおいて記念式典・講演会・祝賀会を開催しました。会場は、主催者の予想をはるかに上回る教職員、学生、一般市民など約350人の聴衆で埋まり、立ち見の参加者も出るほどの盛況でした。

記念式典では、松尾総長と来賓の神田愛知県知事（愛知県産業労働部長が代理）からあいさつがあり、高等研究院に対する暖かい激励の言葉を述べられました。また、野依高等研究院院長が、高等研究院の趣旨やその概要の説明を行い、本学における研究推進・研究成果発信の戦略的拠点としての同院の意義を強調されました。

次いで、記念講演会では、名城大学理工学部教授・NEC 特別主席研究員等を務められ、カーボンナノチューブの研究で世界的に著名な飯島澄男先生が「ナ

ノ炭素材料の科学と応用」と題して話されました。飯島先生は、ご自身の研究を振り返りつつ、重要な発見の背後に長年にわたる研究の経験や成果の蓄積があったことの重要性を強調され、満場の聴衆に大きな感銘を与えられました。また、講演後の質疑応答では、学部学生も含め、多くの参加者から質問が寄せられ、講演内容への関心の高さを伺わせました。

続いて、夕刻からの祝賀会は、シンポジオン内レストランに場所を移し、約60名の参加者を迎えて行われました。後藤高等研究院副院長からのあいさつにつづき、松原名古屋市長から、高等研究院への期待が語られました。さらに、奥野副総長による乾杯の後、飯島先生をはじめとする来賓の方々を囲みつつ、参加者の歓談がなごやかに続きました。



あいさつする松尾総長



講演する飯島澄男先生



歓談する左から野依高等研究院院長、松原名古屋市長及び松尾総長



名誉教授称号授与式・懇談会を開催

名誉教授称号授与式が5月9日（金）、豊田講堂第一会議室で行われました。

名誉教授の称号は、多年本学に勤務し、教育上又は学術上特に功績のあった教授に授与するもので、今回新たに29名（新制計798名）に授与されました。

称号授与式に引き続き、名誉教授懇談会が100名ほどの参加を得てシンポジオンホールで開催されました。懇談会は、新名誉教授の紹介で始まり、昨秋及び今春の叙勲褒章受章者、部局長等の紹介に続いて、松尾総長のあいさつの後、井上 俊名誉教授の発声で乾杯が行われ、終始和やかな雰囲気の中で歓談が行われました。

新名誉教授（敬称略）

大学院文学研究科	加藤 純章
文学部	石原 潤
文学部	後藤 倬男
大学院教育発達科学研究科	神 達雄
大学院教育発達科学研究科	田畑 治
情報文化学部	岩井川幸生
情報文化学部	小木曾基弐

情報文化学部
 大学院理学研究科
 大学院理学研究科
 大学院医学系研究科
 大学院医学系研究科
 大学院医学系研究科
 医学部附属病院
 大学院工学研究科
 大学院工学研究科
 大学院工学研究科
 大学院工学研究科
 大学院工学研究科
 大学院工学研究科
 大学院工学研究科
 大学院工学研究科
 大学院生命農学研究科
 大学院生命農学研究科
 大学院国際開発研究科
 大学院人間情報学研究科
 大学院環境学研究科
 大学院環境学研究科
 理工科学総合研究センター
 理工科学総合研究センター

熊野 聰
 黒田 義浩
 郷 通子
 久場 健司
 太田 龍朗
 中島 伸夫
 前田 憲志
 稲垣 康善
 小早川 久
 鳥脇純一郎
 松崎 雄嗣
 宮崎 哲郎
 森田 健治
 山本 尚
 武居 幸子
 塚越 規弘
 若林 満
 小谷 凱宣
 田中 浩
 松井 徹哉
 堀川 直顯
 日比野倫夫



名誉教授称号授与式であいさつする松尾総長



名誉教授懇談会で紹介される新名誉教授



附属農場に併設された「農業館」の 銘板上掲式が行われる

大学院生命農学研究科附属農場では、昨年度、名古屋市近郊3市町（東郷町、日進市、三好町）と連携し、「都市近郊の農業教育公園」を事業名とした地域貢献特別支援事業を実施しましたが、同事業の一環として、多目的室としての「農業館」を建設し、その上掲式を4月21日（月）に行いました。

式には、佐々木副総長（昨年度の社会連携専門委員会委員長）、坂神総長補佐（社会連携推進室長）、岡田施設部長ほか学内関係者多数の出席のもと、山本生命農学研究科長と横田附属農場長により銘板が上掲されました。

「都市近郊の農業教育公園」事業は、近郊の3市町と地域連絡会を設立開催し、連携・協力して事業を進めるものであり、農業ふれあい教室、農業体験圃場、展示圃場、講演会等を企画・実施しながら、最終的には我が国の食糧自給率の向上の啓発を目的としていま

す。昨年度は、農業ふれあい教室、講演会を開催し、主題の「農業館」を建設しました。今後は、この「農業館」を利用して、ふれあい教室や講演会を開催する計画です。

今年度のふれあい教室の実施日は未定ですが、農業館を利用して以下の5回の講演会を予定しています。

- 第2回 6月21日（土）午後2時から
講師：附属農場助教授 喜多一美
演題：動物生産と地球温暖化
- 第3回 7月19日（土）午後2時から
講師：附属演習林教授 柴田叡弼
演題：森の伝染病 - 松くい虫 -

以下、9月20日、10月18日、11月22日（各土曜日）を予定します。



農業館の銘板上掲式



農業館



金融システム再生への 細く険しい道を求めて

家 森 信 善

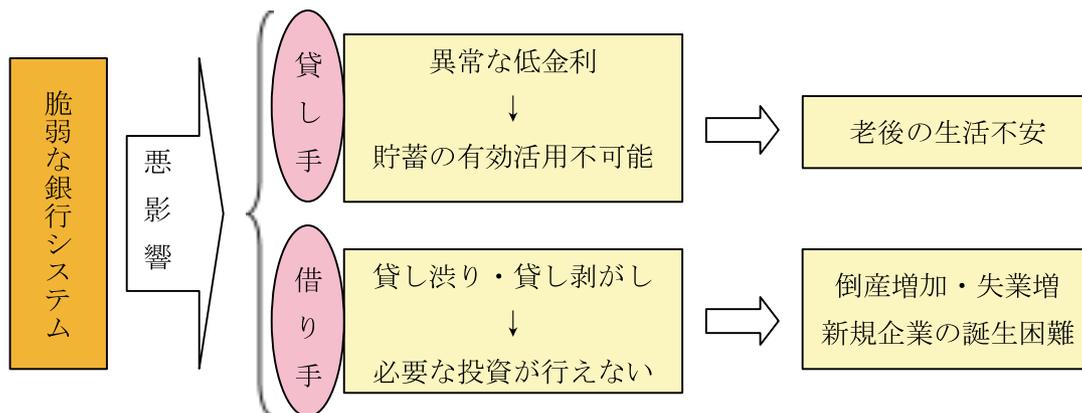
私は、経済学研究科で金融論を担当しています。また、この2月からは、高等研究院の流動教官として、「経済・金融再生のための金融システム改革の研究」というプロジェクトを展開しています。

過去最悪を更新し続けている失業率や、最高値と比べると5分の1になってしまった株価などから、日本経済が大きな問題点を抱えていることは明らかです。1980年代後半には、巨額の貿易黒字や日本企業の対外進出（NYのロックフェラーセンターを日本企業が買収したのは象徴的でした）で対外経済摩擦が激しくなり、「強すぎる」日本経済が海外から強く批判を受けるほどでした。しかし、1990年代にはいと、日本経済の構造的な脆弱さが次々と明らかになってきました。経営不振から破綻する企業が後を絶たないばかりでなく、新しい産業の担い手がなかなか登場してこないのです。最近では、日本発の金融危機が国際金融市場で心配されるほどで、日本経済が「弱すぎる」ことが世界の頭痛の種になってしまいました。

要するに、かつて成功した日本の経済システムは新

しい環境に対応できなくなってしまったわけで、経済構造を変えなければなりません。本格的な高齢社会の入り口に立っている日本経済にとって、構造改革を進める時間的な余裕も限られています。実際、経済構造改革を進めるべきだという点は、いろいろなアンケート調査を見ても、大多数の人が支持しているようです。しかし、それにもかかわらず、現実には構造改革が進んでいません。

なぜでしょうか。金融の機能不全が、構造改革の進まない大きな理由だと考えられています。今の日本の金融システムでは、金融機関が将来性のある企業に資金を融資しないために、新規企業が成長できなくなり、逆に、非効率な企業に（以前からの腐れ縁で）資金を供給し続けるために、いつまでたっても非効率な企業が淘汰されないとされます。もしそれが事実だとすると（実は、問題だとされていることが雰囲気や思いこみによることも多く、それが事実かどうかの検証も経済学者にとっては重要な課題です）なぜ日本の銀行はそうした「ばかなこと」を続けているのかが問われな



ければなりません。その理由がわかると、次には、どうすれば「ばかなこと」をやめさせられるのかを考えることができます。つまり、問題の存在の確認、原因の究明、改善策の提示という形で、多くの金融学者が研究を進めています。しかし、残念ながら、こうすれば良いという改善策の決定版はなく、百家争鳴の状況が続いています。

不良債権の処理を例にとりますと、誰もが不良債権の処理は必要だと考えています。しかし、一方で不良債権の断固たる早期処理を銀行に実施させるべきだというハードランディング派の主張もあれば、まずは景気回復を優先すべきで今の時期に不良債権処理を行うのは経済破滅政策だという景気重視派（悪く言えば処理先送り派）も有力です。もちろん、経済・金融の一体再生を図ることができるのなら、それが一番であることは確かです。

私の高等研究院での研究プロジェクトの最終的な到達点は、金融システムをどう改革すれば経済・金融の一体再生の枠組みが整うのかを明らかにすることです。目下は、そうした政策提言の基礎になるような実証的・理論的な研究成果を積み重ねている段階です。問題の大きさに比べて研究の進展は微々たるものになるかもしれませんが、全力で取り組みたいと考えています。プロジェクトの進捗状況については、私のホームページ上（<http://www.geocities.jp/jf3xfo/iarindex.html>）で定期的に公表（ディスクロージャー）して行く予定ですので、時間のあるときにでもご覧いただければ幸いです。

プロフィール

やもり のぶよし

1963年滋賀県生まれ。滋賀大学経済学部卒業（1986年）、神戸大学大学院博士前期課程修了（1988年）、姫路獨協大学経済情報学部助教授などを経て、現在、名古屋大学高等研究院・大学院経済学研究科助教授。経済学博士。金融審議会専門委員などをつとめる。著書に、『生命保険金融の経済分析』（千倉書房 1995年）、『教養としての金融知識』（中央経済社 1999年）、『信頼できる銀行ってこんなに簡単にわかるんだ』（中央経済社 2003年）などがある。





上出太陽地球環境研究所所長が 英国王立天文学士院賞を受賞

英国王立天文学士院（Royal Astronomical Society）は、今年度の Price Medal を上出太陽地球環境研究所所長に贈ることを決定し、5月9日、同学士院本部で受賞式が行われました。

王立天文学士院は、1820年に創立され、天文・宇宙・地球科学界で最も伝統ある学術組織で、王立アカデミーとともに、ロンドンの中心ピカデリーに本部があります。同学士院は、Gold Medal と4つのメダルで研究者を顕彰しており、そのうち、2つ（Eddington Medal, Herschell Medal）は天文学関係、2つ（Price

Medal, Chapman Medal）は地球科学関係で、それぞれ3年に1人だけが受賞対象とされています。このほど上出所長が顕彰したのは、「地球科学における国際的リーダーシップ、および地上・人工衛星観測による磁気圏／電離圏過程の研究」が対象で、星の進化で著名な林忠四郎京大名誉教授の Eddington Medal 受賞（のちに、京都賞、文化勲章などを受賞）に次ぐ、33年ぶり2人目の日本人受賞者となりました。

また、上出所長は、5月16日、松尾総長に、同賞の受賞報告をしました。



英国王立天文学士院長 J.B. Burnell 氏から
メダルを受取る上出所長
(The Royal Astronomical Society 提供)



Price Medal



松尾総長に同賞の受賞報告をする上出所長



博物館が特別講演会（第22回・第23回）を開催

博物館では第6回特別展「失われた文化財 アフガニスタン パーミヤン展」を3月25日から7月31日まで開催しています。その関連行事として、4月16日に第22回特別講演会「失われたパーミヤン美術」(宮治 昭文学研究科教授)を開催し、一般市民を中心におよそ100名が参加しました。

パーミヤン遺跡が2001年に激しく破壊されたことは広く知られていますが、文学部美術史研究室及び工学部建築史研究室を中心とする名古屋大学隊は1960年代に破壊前のパーミヤン遺跡を精力的に調査しています。宮治教授は1969年の名古屋大学隊の一人として、主に壁画の調査を担当されました。その後、1970年代初めの京都大学隊の調査にも参加されています。講演では、なぜパーミヤンにすぐれた仏教壁画が数多く残されているのか、現在はそれらが破壊されてどのような状態になっているのか、そして、破壊された文化財の修復にどのような問題があるのか等について、宮治教授自身が現地で撮影されたスライドを用いて、詳しく紹介されました。

また、5月9日には、第23回特別講演会として2つの

講演が行われました。約170名の聴衆で超満員の講義室で、まず「玄奘三蔵の道を辿って」(安田暎胤薬師寺副住職)次に「アフガニスタンと私」(前田耕作和光大学名誉教授)が行われました。

安田氏は玄奘三蔵の生い立ちやインドへの旅及び同氏が参加された1964年の調査について、ユーモアを交えて話されました。そして、安田氏らの調査隊は馬でパーミヤンから北へ山越えを、一方、玄奘三蔵は北からヒンドゥークシュ山脈を越えてパーミヤンに到達した話を対比させながら、旅の苦勞を紹介されました。

また、前田氏は1964年・1969年の調査に参加し、美しい壁画で有名なN洞を発見されました。講演では、パーミヤン調査の歴史、名大隊がパーミヤン調査を行った経緯、学術的に非常に価値の高い壁画のあるN洞発見にまつわる話等について、熱っぽく紹介されました。

両日とも講演後の質疑応答では、会場から多くの質問が出されて活発な意見交換が行われ、予定時間を大幅に超えて盛況のうちに幕を閉じました。



講演する宮治教授



講演する安田氏



講演する前田氏



平成15年春の叙勲、 褒章受章者決まる

- 本学関係者6名が喜びの受章 -

平成15年春の叙勲及び褒章の受章者が発表され、本学関係者では次の方々が受章されました。

《叙勲》

勲三等旭日中綬章	山口 利男	名誉教授(教養部)
勲三等旭日中綬章	嘉藤良次郎	名誉教授(教養部)
勲三等瑞宝章	北橋 徹	元事務局長
勲五等双光旭日章	秋谷 省三	元附属図書館事務部長
勲五等瑞宝章	野口 英三	元医学部附属病院 放射線部副診療放 射線技師長

《褒章》

紫綬褒章	板倉 文忠	大学院工学研究科教授
------	-------	------------



鳥脇名誉教授が 文部科学大臣賞を受賞

鳥脇純一郎名誉教授(工学研究科情報工学専攻)が、平成15年度文部科学大臣賞研究功績者表彰を受賞し、4月17日(木)に虎ノ門パストラルで開催された表彰式において、遠山文部科学大臣から賞状と表彰メダルが授与されました。

今回の鳥脇名誉教授の受賞理由は、以下のとおりです。まず、画像演算理論とデジタル幾何学を基本とした医用画像のパターン認識のアルゴリズムを導出し、画像処理エキスパートシステムを開発し、さらに、仮想化人体内部をナビゲートしつつ診断し、また、外科手術シミュレーションシステムによって、治療法を確定して実際の治療に入るといった方式を確立したことです。

さらに、これらの開発によって、医用X線像からの計算機を駆使したがん検診への道を開き、仮想化人体の利用の可能性をいち早く実証しました。また、手術シミュレーションは実際の手術にも応用され、仮想化内視鏡システムは実際のCT装置に組み入れられるなど、患者の負担軽減並びに診療の精度と信頼性の向上に貢献しており、これらの成果が高く評価されたものです。



文部科学大臣賞表彰メダル



新名誉教授のことば

本誌 No.118（平成15年3月31日発行）で「平成14年度 定年退官教授のことば」に寄稿していただいた先生方のほかに、新たに名誉教授になられた次の先生方から、ことばをいただきましたので紹介します。

石原	潤	（文学部）
後藤	倬男	（文学部）
岩井川	幸生	（情報文化学部）
前田	憲志	（医学部附属病院）
山本	尚	（大学院工学研究科）
小谷	凱宣	（大学院人間情報学研究科）
日比野	倫夫	（理工科学総合研究センター）

名大での23年間を振り返って

石原 潤



私が名大でお世話に成ったのは、助手として勤務した1966～68年の2年間、再び助教授・教授として勤務した1975～96年の21年間、合わせて23年間である。私にとって名大は、研究者生活の大部分を過ごした所、言うまでもなく最も愛着のある大学である。その後、故あって京都大学に転出したにも関わらず、この度名誉教授の称号を頂けたことは、大変名誉なことと心より感謝している。

最初に名大に赴任したのは37年前、私はまだ26歳の若造であったが、文学部の教官や学生諸君は暖かく迎え入れて下さった。助手の2年間は、研究に専念出来た幸せな2年間であった。その頃の名大は、まだグリーンベルトが土むき出しのグランド状であり、野球やソフトボールには適していたが、風が吹くと砂塵が舞い、「名大砂漠」と呼ばれていた。両側の樹木も背が低く、現在の姿を予想だに出来ない状態であった。

私はその後7年間を名市大で過ごしたが、35歳の時再び文学部助教授への就任を要請され、「よし、ここで研究と教育に全力を尽くそう」と、かなり気負って再着任した。しかし、当時の文学部は「哲学問題」がたけなわの時期であり、同僚を裁く教授会が夜遅くまで続くと言った異常事態であった。その前の「美学問題」に続く「哲学問題」で、文学部は10年近い歳月を費やしたとされるが、「哲学問題」の終焉で比較的安穏な日々が訪れたのは1977年以降のことであった。

この頃から文学部の各教室は、再び研究と教育に専念することが出来るようになった。私の所属する地理学教室でも、この頃から、教官の研究活動に加えて、とりわけ大学院生の研究活動が活発化し、全国の主要大学のスタッフとして巣立って行くものが急増した。名大の地理学教室は、東大、京大、東京教育大（現筑

波大）等に比べて、かなりの後発組であったにもかかわらず、この時期、明らかに先発組に追いつき、ある面では追い越したとすら言えると思う。

しかしながら、研究や教育への「沈潜」もそう永くは続かなかった。私が教授に昇進したのは1988年のことであったが、この頃から文学部を巡る情勢は再び波乱含みとなる。即ち、さまざまな「改革」が大学を襲うようになり、文学部も例外たりえなかった。まず、文系の研究所を作ろうと言う運動が変身して国際開発研究科が発足し、次いで、旧教養部の改組が実行され、文学部はそれぞれにおいて新たな負担を分担をすることとなった。さらに旧帝大を中心とする大学院重点化の動きのなかで、名大文学部も、まず大講座化を実施し、次いで重点化を目指す必要があった。私は、教授として勤務した8年間の大半を、将来構想委員、四年一貫教育委員、あるいは評議員として、これらの「改革」にコミットするようになった。それらは、学部間・教室間の利害の調整を図る困難な作業でもあった。文学部勤務の最後の数年間は、とにかく忙しかったとの印象である。

名大を離れて既に7年の歳月が流れた。この間も文学部は次々と激震に襲われたと聞いている。大学院重点化には成功したが、再編により地理学教室等が環境学研究科に移り、今また再度の再編も予定されているとの由である。建物の増築や改築が進み、景観的にも変化は大きい。しかしながら、グリーンベルトの鬱蒼とした緑、大木に成長した樹々は、名大の着実な発展と成熟を象徴しているように、私には思われる。制度的にどのような変化があろうとも、名大文学部は揺るぎない地歩を確立していると信じている。

錯視と色、名大からの賜り物

後藤 倬男



名古屋大学へ入学後の心理学概論の授業で、有名な錯視(幾何学的錯視)を知り、それらには、提出者の名前がつけられていることを学んだ。私は、「新彗星の発見」を連想し、新しい錯視の創作を夢みた。それ以来、名大には、この「イリュージョン・ハンター」を、40数年にわたって暖かく見守っていただき、数々の我が儘を許してきていただいている。

私は、「ゴトウ錯視」の創作を目指して、故横瀬善正教授から「分割距離錯視」に関する卒論のテーマをいただき、この錯視への横瀬理論の適用について検討した。その後、「大きさ錯視」へと研究対象の範囲を拡大し、「大きさの円対比錯視(エビングハウス錯視)」に行き当たった。この錯視は、等しい2つの円が小さい円に囲まれている場合にはより大きく、大きな円に囲まれている場合にはより小さく見える錯視であり、「見かけの大きさの違い(錯視量)」は、何度見ても変わらなかった。教養部に在任中に、私は、1日1回(2日以内に必ず1回行う)を条件として、この錯視の測定を200回くり返した。反復観察によっても、錯視量は、ほとんど減少しなかったが、錯視の見えは、全体に過大視方向へ変動していた!時を同じくして、「錯視への刺激提示条件の効果」に関して、同じ研究室出身者での「錯視研究グループ」が発足し、この研究会は、現在も続いている。

また、視覚の生理的背景に強い関心をもっていた私(当時文学部助手)は、横瀬教授のご紹介により、環境医学研究所の御手洗玄洋教授のもとで、感覚生理学的研究をご指導いただくことになった。御手洗教授は、猛烈な研究者であり、同教授との共同研究の思い出は、現在も鮮明である。研究課題は、「アマクシ細胞と視神経節細胞の「色光応答特性(色受容野)の分析」であった。その後、文学部では、横瀬教授と内山道明教授のご指導を受けて、「形が網膜電図に及ぼす効果の分析」が、当時では高価な「データ処理装置」を使わせていただきながら、共同研究として進められた。

このような経過から、私は、文学部での大学院生との共同研究として、錯視と色を結びつけた「色の錯視(色の同化・対

比)」を、メインテーマとして追究していくことになった。この研究にも、刺激提示と測定のための装置類に、心理学研究室からは過大な研究費を配分していただき、本当に感謝申し上げている。

平成6年の春、文学部教授会での資料の中に、愛知県立芸術大学での教員公募があった。「錯視と色」の芸術的な展開を考えており、同大学の設立から魅力を感じていた私は、研究室のスタッフに応募への了解を求めた。当時、私は、評議員と図書館商議員、それに、ソフトボール部の部長を務めさせていただいており、名大・文学部・心理学研究室には、大変なご迷惑とご心配をおかけいたしました、誠に申し訳なく存じ上げている。

「ゴトウ錯視」の創作には、興味が薄れてきているが、それは、「有名な錯視のほとんどが、いくつかの基本的な成立要因の組合せ(変形パターン群)にすぎないこと」が、これまでの研究によって理解されてきたからである。しかし、反復観察に伴って変動を示した錯視は、とくに、色の錯視において、観察者の「構え(認知的処理)」にも影響を受け、ときに「消失」し、しばしば「反対の見え」までも生じることが認められた。錯視は、「認知世界の成立」にかかわる「本質的な特異現象」であった!

愛芸大では、感性豊かな芸大生を対象に、「錯視の成立要因」と「色の錯視への認知的処理」に関して、細々と研究を続けている。あと2年の在任期間で、世界に誇るわが国の錯視研究者の協力を得て、「錯視研究の纏め」を行いたいと願っている。

「錯視と色」というテーマを与え、それらへの研究展開のために大きな援助を惜しまず、常に刺激と拠所を備えて励まし、そして、勝手にとび出した私に、このような名誉ある称号をご配慮いただいた我が母校名大に、心からの深謝の気持ちで一杯である。これまでの人生の半分以上をお世話になり、そして、「錯視と色」を賜った名大と関係者の皆様にも、心底からの謝意と敬意を表し上げ、ますますのご進展を切に祈り上げたい。

私も一回経験しました

岩井川 幸 生

名古屋大学に35年お世話になり、この3月に琉球大学に移ってまいりました。この間、大半は教養部で生物学の講義を担当して過ごしました。覚え書き帳を開いてみたところ、1000回をはるかに上回る回数の授業をやっておりました。夢中でしたので、これほどの数になっているとは全く予想外のことでした。この期間に、たった一回だけですが、私もまさに至福の時とでも申すべき素晴らしい授業を経験しました。名大トピックス No. 118に熊野先生が語られているような満足を味わうことができたのです。

59カリ（注）になってからのことでしょうか。理系1年生を相手にした発生生物学を主な内容とした授業でした。動物の細胞分裂を話題とし、団 勝磨先生の稗説提唱のいきさつとそれに触発された若き研究者たちの数々の実験について語った時でした。途中から教室がシ - ンとなったことに気づきました。70人ほどおったでしょうか。学生達の目が輝いていることにも気づきました。ノ - トをとる姿はありませんでした。たんと話をづけ、今日はこれで終わりますと終わりを告げた途端、学生諸君の間から、フ - ッとため息とも感嘆の声ともなんともいえない声がもれてきたのでした。ず - っと息をつめて聞いてくれていたのでしょうか。私との間で、ピッタリ息があっていたようです。それまで一度も経験したことのないなんとも表現しがたいまあ - るく、ゆったりした時間・空間に包まれたことでした。話の内容はみんなにつかんでもらえ、研究の醍醐味の一端を感じてもらえたと一人合点をしたものでした。その時の味をもう一度楽しみたいものと、入念に準備をし授業にのぞんだのですが稔りませんでした。似たような雰囲気は何回か作りだせたのですが、それとて5本の指があれば間に合う

ほどの回数でしかありませんでした。2匹目の・・・はいませんでした。

授業は両者の共同作業でできあがるものでしょう。両者の呼吸があった時に快感が生まれるのではないのでしょうか。あの快い時間がどうやって生まれたのか今でも答えは？です。きっと、学生達からの贈り物だったんですね。あのようなプレゼントを求めてその後の授業もやり続けることができたのだと、今でもそう信じております。・・・冥利につきる素晴らしい体験をさせてくれたあの時の学生諸氏にありがとうと遅ればせながらお礼を申し上げるものです。

昔話だけになってしまいましたが、名大在職中のささやかな経験を述べさせてもらい離任のことばとさせていただきます。お世話になりました名古屋大学の一層のご発展を願っております。どうもありがとうございました。

（注）59カリとは、教養部の昭和59年度改正カリキュラムのことです。

活力ある高齢者層の創出にむけて

前田 憲志



この度、名誉教授として名古屋大学にまたお世話になることとなりました。長年お世話になった大学を離れてみますと、知的集団である大学に長く在籍させていただいたおかげで先輩、後輩からじつに多くのことを勉強させていただいたのだとつくづく感じており、皆様方に深く感謝申し上げます。また、大学職員としての社会への発言力の大きさをも改めて認識致しております。学部卒業以来、ほとんどの期間を大学で学ばせていただいた者として、定年退職をもって、やっと大学を卒業し、大学で学んだことが実践でどれだけ通用するのか、どうすればお役に立てるのかを考えて、フレッシュマンとして積極的に社会との関わりを持ってゆきたいと考えています。

この時期に新たに名古屋大学の名誉教授として活動の機会を与えられましたことに感謝申し上げますとともに、名誉教授として今、何が求められているのか、どうすれば、その職責を果たせるのかという大きな課題をいただいたわけで、この問題を真剣に考え、行動していかなければならないと考えています。

わが国は世界一の長寿国で急速に高齢化が進んでいる事をご承知のとおりです。この事は本来、喜ぶべきことなのに、医療費の増大に伴う、健康保険制度の破綻の危機、年金制度の破綻の危機、介護・福祉分野での財政上ならびにマンパワー不足の問題などが噴出し、高齢化はわが国のアキレス腱とのネガティブな認識が一般化してきています。このことはそれほど驚くべき事ではなく、予想を超えた高齢化対策の誤算のために生じた人為的なミスに他なりません。「高齢者は体力、智力ともに衰えるので社会的にはお世話する対象以外にはない」と決めつけ、どこまでの力が引き出せるのか、どのようにすれば衰えを防止出来るか、いや、もっ

と積極的に社会に寄与するためにはどうすればよいかなどへの真剣な対応がなされず、高齢者の就職や新しい企業の創出についても個人の努力にまかされ、抜本的な高齢者活性化対策がなされていないためであるといっても過言ではありません。

動的平衡のもとで刺激を受けることによってそれに対応すべく進化する生物にとって「ご苦労さんでした。何もしないで結構です。」という状況を画一的に作り出す事自体が根本的に間違っています。「基本的に死ぬまで働く事」が重要だと思います。規制緩和で最も重要な事は年齢の規制を取り払う事でしょう。もちろん、定年制を廃止せよというわけではありません。現業時代には出来なかった新しいチャレンジこそが求められていますし、それを支援し育てる社会の仕組みが必要でしょう。

高齢者は死にゆくものだから、何とか生活が出来ていけばいいのだという考えは間違っています。新しいチャレンジに投資していける財力も高齢者には必要なのです。将来に対する生活に不安をもつ状態では蓄えがあったとしても失敗するかもしれない新しいチャレンジに費やそうとは思わないのが一般的でしょう。今の社会制度では高齢者は消極的にならざるを得ない流れになっています。「活力ある高齢者層」を作り上げることが、わが国の高齢者問題解決の最善の道だと考えています。これを実現するためには「死ぬまで働く」ことに耐えられる体力、智力を医学的に可能にしておくことが重要でしょう。

「百歳まで元気に働こう」という会が発足して歩き出しています。及ばずながら、この目標に向かって頑張っていこうと考えています。

皆さまのご指導、ご支援をお願い申し上げます。

シカゴより（シカゴ便り）

山 本 尚



4月というのに、春まだ遠い、アメリカ、シカゴのハイドパークからご挨拶いたします。

名古屋に比べて、初めて経験する永い厳しい冬でしたが、さすがに4月の下旬ともなると、様々な花が一斉に咲き始めました。特に昨日あたりから、辛夷、四手辛夷、白木蓮、紫木蓮が満開となりました。豊田講堂前の美しい辛夷の木々が思い出されます。

昨年6月末に60歳目前にして退官させて頂きました。わがままを聞いて頂いた松尾総長、後藤研究科長、小林教授（生物機能工学専攻主任）に改めて厚く御礼申し上げます。さらに今回思いがけず名誉教授にして頂けるとのお知らせを賜り、大変に恐縮致しております。ご配慮、ありがとうございます。振り返って、1980年に赴任以来21年間大学の多くの方達にお世話になりました。工学部、工学研究科、情報メディア教育センターの皆様方、本当にありがとうございました。気持ちのいい爽やかな人たちに支えられながら、教育、研究を存分に楽しませて頂きました。心から御礼申し上げます。

名古屋大学では、いくつかの組織のお仕事もさせて頂きました。工学部の大学院重点化と流動型大学院システムの導入、全国の工学教育プログラムの組織化と創成科目の試行、情報メディア教育センターと情報連携基盤センターの新設等、執行部の先生方や事務方の人々と夜遅くまで熱く語り合ったのを、昨日のように思い出します。いつの間にか時間が経ってしまったようです。今や、法人化を目前に、様々な難しい問題が山積していることとお察し致します。

名古屋大学のアカデミアとしてのこれまでの素晴らしい伝統を発展させつつ、21世紀の我が国を代表する基幹大学として、今一度大躍進されることを確信して

おります。

ここシカゴでは、再び初心に戻って、研究三昧に明け暮れています。朝7時には湖岸の自宅から大学まで20分くらいかけて歩いて行きます。ハイドパークはアメリカの大学にしてはクラシックなキャンパスで、銅葺きの屋根の4 - 5階くらいの石造り建物がずっと並んでいます。キャンパスは広いほうですが、ヤード内は静かな落ち着いたたたずまいです。昼にはファカルティ・クラブに行き、化学の教官達と食事をします。20人くらい座れる私たちの暖炉前のテーブルが指定席で、12時頃になると、化学教室の教官達が三々五々集まって、食事をし、またいつの間にかオフィスに戻って行きます。30分から1時間くらい、政治の話、学生の教育、昨日の研究の結果等、様々に話が飛び交いますが、私にとっては、格好の英会話の時間となります。その後、夕方まで学生達と化学を議論し、講義の準備に四苦八苦し、慣れないグラントの申請書を一所懸命書いております。60歳になってもう一度留学したようなものですから、少し若返ったようです（気持ちだけです）。一方、名古屋にありましたときと同様に、周りの人たちに本当に大切に頂き、幸せ者だと思っております。

後10年か15年くらいはここで化学を楽しませて頂くつもりです。シカゴは残念ながら内陸ですので、魚料理は全くいけません。ミシガン湖の魚が食べられればいいのですが・・・。そこで、名古屋には年に数回は夫婦揃って帰り、日本食を食べ貯めするつもりです。もし、お見かけ頂いた折には、お声を掛けて頂ければ幸いです。よろしく申し上げます。

「教養部」の思い出など

小 谷 凱 宣



このたび、名古屋大学名誉教授に推薦していただき、あらためて大学関係者の皆様に感謝の言葉を申し上げます。すでに3年前に名古屋大学を離れておりますが、遅れた挨拶とさせていただきます。

私は1987年4月に大阪府吹田市の国立民族学博物館から旧教養部に赴任しました。当時の乏しい研究費、狭いスペースなど、研究条件の窮状は事前に了解していましたが、それよりも驚愕した事実は、そのような研究条件を当然と見なす雰囲気は充満していたことです。赴任早々に内心に誓ったことは、所属機関・部局に研究費などの準備がないのなら、必要な研究活動費は外部から導入し、共同研究を推進するしかない。もっとも手近なのは文部省（現文科省）科学研究費補助金である、と。赴任した年の秋から、定期的に申請書作成に力を注ぎ、幸いなことに1988年度から、総合研究Aをはじめ、年次調査研究計画にしたがって申請した一連の研究プロジェクトをほぼすべて支えていただきました。あらためて関係者の方々に感謝の言葉を捧げます。

おかげさまで、1980年代前半からドイツ・ボン大学チームが開始していた海外所蔵アイヌ文化財の実態調査を継承する形で、1990年度からは実体が不明であった北米アイヌ資料の悉皆調査を代表者として実施し、さらに、1995年度からのロシア国内アイヌ資料調査の立ち上げと実施に協力しました。海外調査の最終段階の1999年度には、ドイツ統一前のためにボン大学関係者も調査していなかった旧東独領内のアイヌ資料の調査を代表者として実施しました。そして2000年度にボン大学で経過報告を兼ねた研究会を開き、2001年夏にユジュノ・サハリンスク郷土博物館における調査をもって海外アイヌ資料調査を一応終了し、2002年秋に文科省「大学と科学」公開シンポジウムの一環として、「海外アイヌ文化財：現状と歴史」を北海道大学構内で開き、一般

の方々に調査結果を紹介することができました。

一連の調査の目的は、明治以前から海外研究者らにより収集されていたアイヌ民族の文化財（博物館所蔵資料）の実態を把握し（約60の博物館などの研究機関にて、13,000点余のアイヌ資料の所蔵を確認）、背景学術情報が欠落している国内アイヌ資料の比較検討が可能かどうかを確認し（進行中）、海外アイヌ文化財のデータベースを作成し（ほぼ準備済み）、今後のアイヌ研究の基礎を作ることです。

同時に、欧米研究者がアイヌ民族とその文化に関心を抱いた社会的・思想的背景と、同じ時期の日本の研究者の活動の実態を探り、近代日本におけるアイヌ研究史と先住民研究史の見直し、日本における博物館のあり方の再検討などをおこなっています。これらの諸課題は、まさに近代日本における自然史研究、異文化研究の出発点の再検討そのものと見なしています。

いま思い返してみますと、このような長期にわたる海外の現地調査を実施できたのは、旧教養部という貴重な場に所属していたからと言えます。それは、旧教養部時代には、夏休みに最大2ヶ月、春休みに最大1ヶ月半という比較的まとまった期間の海外現地調査が可能であったからです。この得難い教育研究環境のおかげで、10年以上にわたった一連のアイヌ資料悉皆調査が可能であったと思っております。

教養部はその後、情報文化学部と人間情報学研究科に発展的に改組されました。それと同時に、教育研究体制が大幅に変化し、春休み中の海外現地調査の実施がほぼ不可能になっています。その意味で、私には旧教養部時代がことのほかに懐かしく思い出せます。

勝手なことを申しましたが、教育研究面における名古屋大学のますますの発展を祈念し、遅れた離任の言葉に代えさせていただきます。

ものづくりにかかわって

日比野 倫 夫



名古屋大学を退職し、豊田市にある私立大学に勤務して2年余りになります。今回名大トピックスに寄稿するよう依頼されましたので、以前理工総研ニュースに寄せた記事の内容も含めて書かせていただくことにしました。

木造の医学部講堂での入学式を迎えたのは昭和33年4月であった。翌34年には伊勢湾台風、35年には60年安保の学生運動も経験して工学部電子工学科を卒業し、その後の大学院も含めて9年間名古屋大学で学ぶことになった。また教官として工学部および理工科学総合研究センターに34年間在籍し、まさしく名古屋大学で学び、育てていただいたことになります。

大学院を終了してまもなく、コーネル大学で電子顕微鏡の装置開発をする人を探しているがやってみないかと勧められ、コーネル大学へでかけることになった。これが、電子顕微鏡のものづくりにかかわることになったきっかけである。シーゲル教授の研究室では、バイオ分子の構造観察をめざして、新しい電子顕微鏡の開発が始まっていた。この顕微鏡の柱は、高性能電界放出電子銃、収差の小さい超伝導レンズ、4極子レンズを使った投射レンズ系の開発であった。これらはどれも新しい試みであり、これらを大学のマシンショップと町工場の workshop で、手作りにつくろうというのであった。私は電子銃室および照射レンズ系の製作と超伝導レンズの製作を担当し、ものづくりの楽しさ(と苦しさ)を知ることになった。超伝導レンズの実験では、まず超伝導レンズ単体を真空テストをした後、電子顕微鏡の対物レンズ部分と入れ替えて実験をすることになる。ところが、単体のテストでは問題ないのに、本番の実験で液体ヘリウム温度に冷やすと真空漏れが起こってしまう。装置の一部をはんだ付けしており、低温に下げるとこの部分でリークが起きるのは分かったが、この解決には苦労をした。そして、この問題も解決し、Nb₃Sn ディスクにトラップ

した永久電流を使って像が観察できたときの喜びは今でも忘れられない。

帰国してしばらくして、名古屋大学では加速電圧1000kVの超高圧電子顕微鏡の建設がはじまった。私も超高圧電子顕微鏡の仲間に入れていただき、この超高圧電子顕微鏡での実験が次の1250kV 超高圧走査透過電子顕微鏡の開発につながった。さらに格段に性能のよい、電界放出電子銃を搭載した超高圧電子顕微鏡の建設を目指したが、実現できないまま名古屋大学を去ることになったのは残念であった。

第2期科学技術基本計画が策定され、特に重点を置く4分野の一つとしてのナノテクノロジー・材料において、ナノレベルの計測・評価・加工などの基盤技術が重点化項目として挙げられた。しばらく前から、プロジェクトの選定の際、直接的に工業製品に結びつく研究が重要視されていたが、ここにきて基盤技術の重要性が見直されていると考えられる。私の関係している学振の産学協力研究委員会からは、4件の装置開発プロジェクトが未来開拓学術研究推進事業および学術創成研究費によるプロジェクトとして採択された。科学技術基本計画において基盤技術の重要性が明確に示されたことは、基盤技術を重要と考える私にとってうれしいことである。自分自身の手による本格的なものづくりは今後はできないかもしれないが、できる限りものづくりにかかわり、お手伝いをしたいと考えている。

終わりにあたり、名古屋大学のますますの発展を祈念するとともに、長い間お世話になった名古屋大学および支えてくださった多くの方々に厚くお礼申し上げます。



本学で東海地区国立学校等初任職員研修を開催

平成15年度東海地区国立学校等初任職員研修が4月22日から25日までの4日間、本学を主会場として実施されました。

同研修は、東海4県の大学、高等専門学校及び大学共同利用機関等に新たに採用された一般職員に対し、国家公務員の使命と心構えを自覚させるとともに、必要な業務遂行上の基礎知識、能力及び態度等を養成することを目的として平成4年度から実施されているものです。

今年度は、14機関から108名（男性76名、女性32名）が参加し、関総務部長のあいさつに続き、同部長による「大学の当面する諸課題」、瀧本経理部長による「会計制度」、金井篤子教育発達科学研究科助教授による「職場の人間関係」及び齋藤岐阜大学人事課長による「公務員制度」等の講義のほか、束村博子生命農学研究科助教授による「男女共同参画」の講義及び演習、

藤田敬一元岐阜大学教授による「仕事と人権感覚について」、(株)NTTマーケティングアクト名古屋・講師による接客態度、名刺交換及び電話対応などの「ビジネスマナーの心構えと基礎知識」等広範かつ内容のある講義が行われ、研修生は熱心に聞いていました。

また、3日目の講義終了後は、三河ハイツ（愛知県額田郡幸田町）に会場を移し、研修生は、金子人事課長による「公務員制度」、瀬戸川豊橋技術科学大学庶務課長による「公務員の使命と心構え」の講義を聴講しました。さらに、演習「セクシュアルハラスメントの予防」では、研修生の司会進行のもとで、活発な意見交換が交わされました。

研修生は、この4日間の研修を通じて、他機関職員との親交を深めるとともに、公務員としての自覚を深めることができました。



講義を受ける研修生
(文系総合館カンファレンスホールにて)



研修生全員による記念撮影（三河ハイツにて）



今年度の学校見学が始まる

企画広報室では、例年8月に実施されている大学説明会とは別に、高校生や保護者等の学校見学を随時受け付けていますが、4月18日に、今年度初の学校見学として、麗澤瑞浪高等学校の先生、生徒総勢80名が本学を訪れました。

一行は、二班に分かれ、広報プラザ、博物館及び図書館の見学の後、文学部において、山本直人文学研究科助教授から教育・研究内容の説明を受けるとともに、文系総合館、考古学実習室及び陳列室を見学しました。

この学校見学は、普段のキャンパスの雰囲気を感じてもらうことで、本学でのキャンパスライフに夢と希望を持たせ、入学を目指すきっかけとなることを目的として、主に、本学紹介ビデオの上映を交えた概要紹介、広報プラザ・博物館・図書館の見学、キャンパスの自由散策等を実施しており、また、特に希望される場合には、学部等の協力のもと、見学・説明会も行っています。なお、昨年度の来訪者数は、31校1,585名でした。

平成14年度大学見学受入状況

訪問日	曜日	学校名	人数
4月16日	火	杜若高等学校	35名
4月19日	金	浜松学芸高等学校	112名
4月23日	火	水口東高等学校	42名
4月26日	金	瑞浪高等学校	116名
5月7日	火	山梨学院大学附属高等学校	111名
5月8日	水	浜松北高等学校	43名
5月14日	火	中京高等学校	90名
5月15日	水	美濃加茂高等学校	62名
5月23日	木	岐阜北高等学校	292名
6月26日	水	常滑北高等学校	60名
7月2日	火	高崎高等学校	35名
8月26日	月	大野高等学校	45名
9月25日	水	吉良高等学校	23名
10月3日	木	津西高等学校	90名
10月18日	金	刈谷高等学校	35名
10月18日	金	豊田南高等学校	54名
10月24日	木	一宮市奥中学校	2名
10月25日	金	大垣北高等学校	80名
10月25日	金	武豊高等学校	40名
10月30日	水	助光中学校	2名
11月8日	金	成章高等学校	45名
11月13日	水	阿智高等学校	34名
11月13日	水	助光中学校	5名
11月14日	木	高森台中学校	17名
11月20日	水	北陸大谷高等学校	30名
12月5日	木	天王寺中学校	10名
12月16日	月	I.C.nagoya 日本語学校	22名
1月14日	火	韓国日本語教室	8名
2月7日	金	鎌倉台中学校	3名
2月13日	木	東可児中学校	2名
3月27日	木	袋井高校	40名

受け入れ学校数 31校 人数 1,585名



文学部について説明する山本直人助教授



図書館職員から説明を受ける高校生



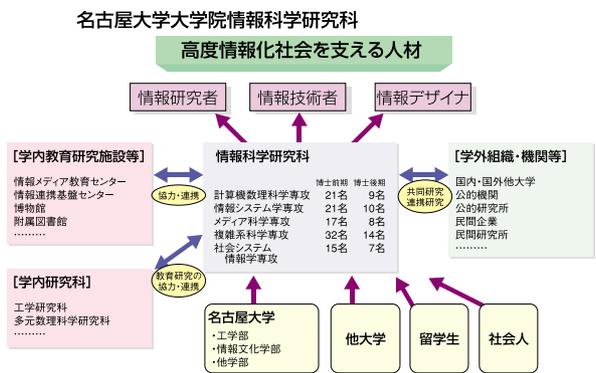
平成15年度における教育研究施設の充実

大学院情報科学研究科（平成15年4月 設置）

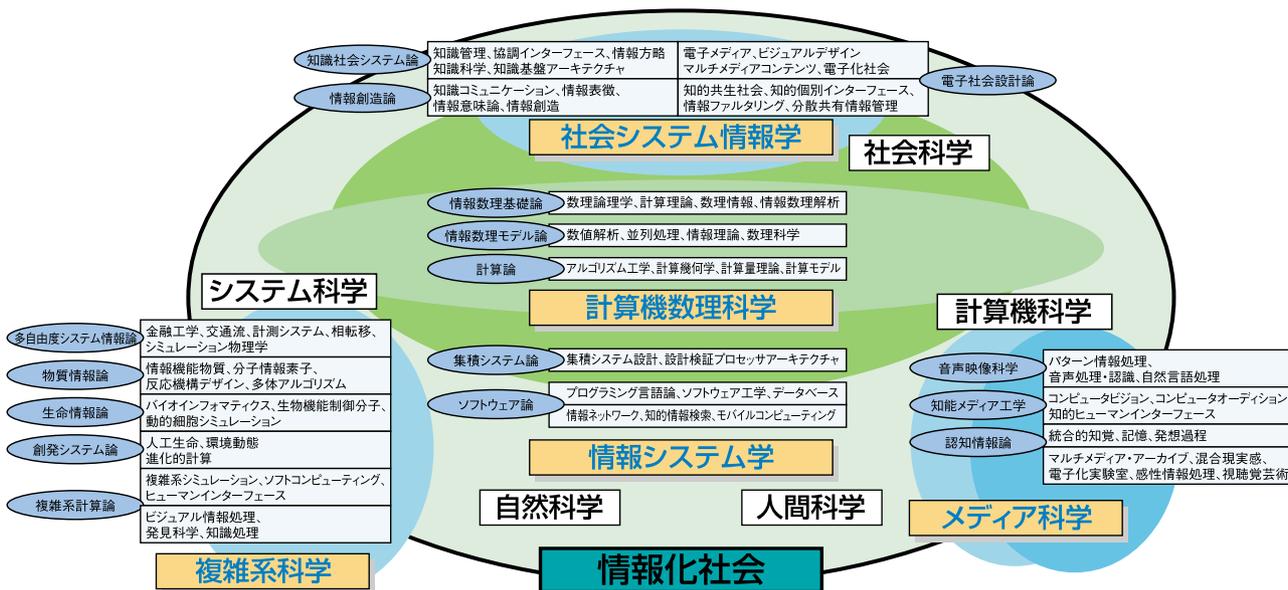
情報は、人間社会にとって現実世界の現象を抽象化し、それによって認識、理解、伝達することを可能とする、物質やエネルギーと並び重要なファクターであり、工学、理学、生命科学、人文科学、社会科学などの学問と深く関わり、今では必要不可欠な技術となっている。社会の情報技術に対する要求が一層大きくなる中、大学に対しては、情報技術を中心に人間・社会・自然における情報活動を位置付けた情報科学領域の体系を整備・発展させ、その成果を社会に還元することが強く望まれている。これら要請に応えるべく、これまでに情報に関して個々の学問分野で行われてきた教育・研究を統合・連携した「情報科学」を構築することを目的とした「情報科学研究科」を設置

目的

- ・情報科学の先導的かつ挑戦的な教育・研究の推進
- ・情報化社会を支える高度な研究者・技術者の育成
- ・地域情報化への貢献
- ・中部圏、そして日本の産業への貢献
- ・基礎情報科学を通じたアジア、世界への貢献



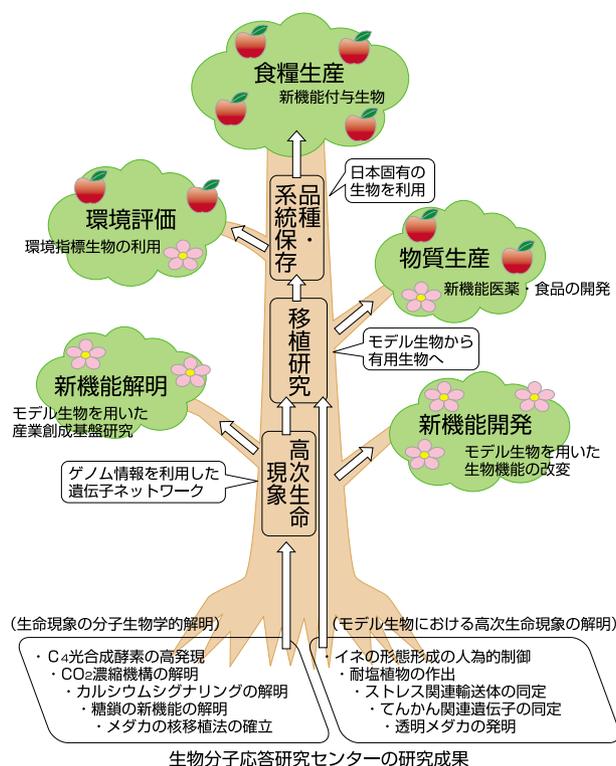
専攻構成とキーワード



生物機能開発利用研究センター

(平成15年4月 設置)

従来の生産システムとは異なった原理による新産業の創設とそれを支える新しい学問体系の構築に関する社会的要請が高まっている。特に、生物又は生物システムの持つエネルギーや反応機構及びこれらの循環システム等を巧みに利用した、いわゆる生物系新産業に対する期待は大きいので、既設の「生物分子応答研究センター」を発展的に廃止・転換し、モデル生物を用いた生命現象にかかわる高次生物機能の解明の研究を更に発展させるとともに、生物系システムを利用した産業技術の確立を目指すために設置

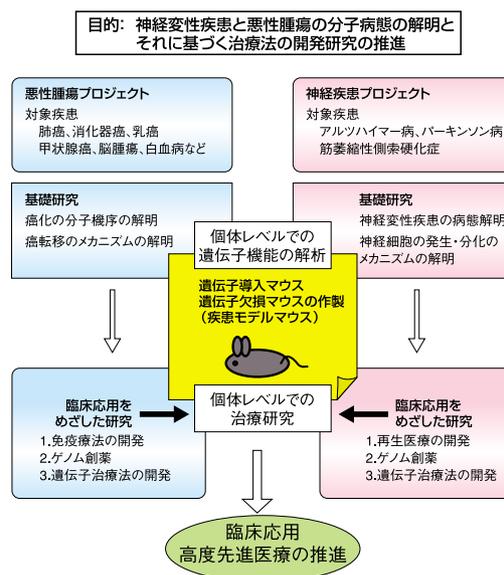


大学院医学系研究科附属神経疾患・

腫瘍分子医学研究センター

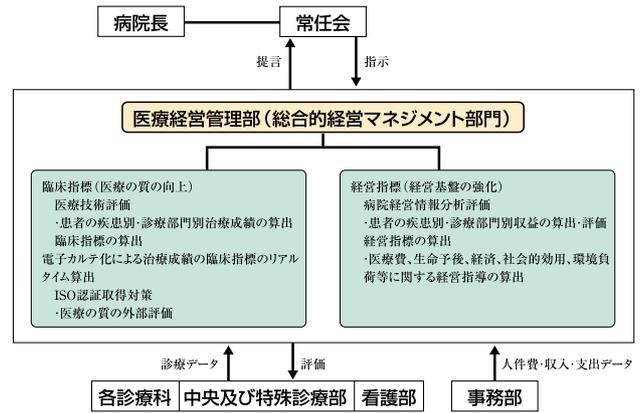
(平成15年4月 設置)

同研究科には、ガン遺伝子の一つとしてRET 遺伝子を発見した研究グループが存在しており、神経変性疾患と悪性腫瘍の病態解明に有用な様々なモデル動物の作成や疾患発症にかかわる新規遺伝子の同定を行う研究を推進し高い評価を受けている。この両者を融合することにより、これまで治療が不可能とされていた神経疾患や悪性腫瘍など難治疾患患者に対する病態解明から治療法の開発に至る先端的医療に道を開き、分子医学領域に貢献するために設置



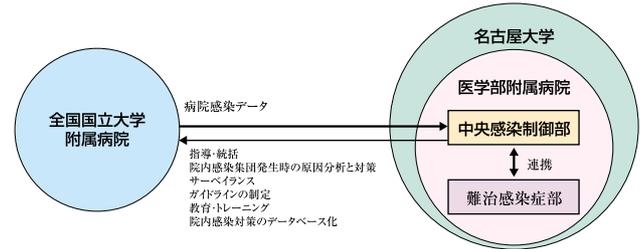
医学部附属病院医療経営管理部
(平成15年4月 設置)

国立大学病院のマネジメント改革を実行するためには、意志決定、組織、運営、経営、近隣地域とのネットワーク化など全般にわたる病院改革が必要であり、それを恒常的に行うために総合的マネジメント部門が必要不可欠となるので、医療の質の向上と経営の効率化を図る戦略事業部を設置



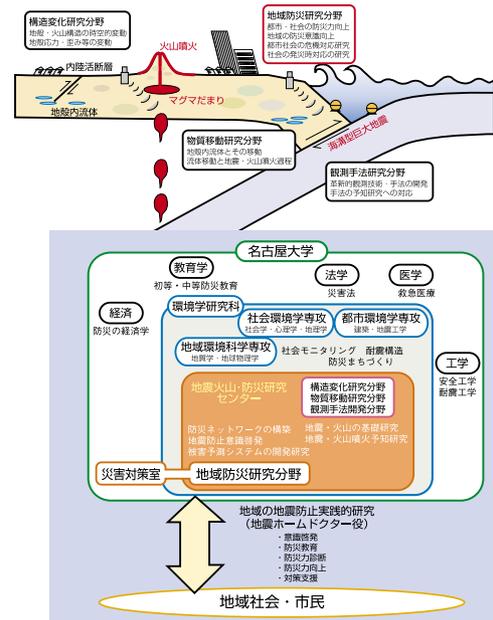
医学部附属病院中央感染制御部
(平成15年4月 設置)

本学医学部附属病院が中心となって、国立大学医学部附属病院長会議に感染対策協議会が設置され、院内感染対策のためのガイドライン策定や統一サーベイランス(感染情報の収集や監視)の試行など、院内感染対策を精力的に行ってきたので、これらの実績が評価され、本学医学部附属病院に国立大学附属病院のセンター的役割を担う「中央感染制御部」を設置



環境学研究科附属地震火山・防災研究センター
(平成15年4月 設置)

平成13年度中央防災会議において、想定東海地震防災対策の推進に関する特別措置法が成立し、名古屋市が政令指定都市として初めて強化地域に指定されることとなった。平成14年7月、東南海南海地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法が成立し、国は必要な政策を講ずることとなった。地域随一の総合大学である本学へも大きな期待が寄せられている。そこで既設の「地震火山観測研究センター」に地域防災研究分野を付加し、地震と火山噴火予知から地域防災までに一貫した総合的研究を行うことを目的とし、地震関連研究の進展を図るために設置



INFORMATION

「日本数学コンクール」開催

- 開催日時 平成15年8月10日(日)
 10時受付 解答時間は10時30分から16時まで
- 会場 名古屋大学情報文化学部(詳細は参加証にて指示)
 三重県内には別に四日市高等学校、津高等学校、伊勢高等学校の3会場があります。大阪市内は清風高等学校
- 参加資格 高校生及び高校生相当年齢の者(数学コンクール) 中学生(小学校5,6年生も可)(ジュニア数学コンクール)
- 応募方法 右記の要領に従って往復葉書で平成15年7月18日(金)(必着)までに申し込むこと
- 参加料 2,000円 当日会場にて集めます。
- その他 (1) 昼食は各自で持参すること。昼食の時間は、各自が自由に設定し、その時も解答にあたってよい。ただし、会場から外へ出ることはできない。
 (2) 参考書、ノート、電卓等の持ち込みは自由とする。ただし、問題に関する私語は禁止する。
 (3) 往復葉書は右記に従い、(1)~(10)をもれなく記入すること。往信、返信の位置を間違えないこと。また、申し込みは、1通につき一人のみとする。
 (4) コンクールに関する問い合わせは、下記まで
 名古屋大学企画広報室内 日本数学コンクール係
 電話 052-789-2011
 時間 9:00~12:00、13:00~17:00(土、日を除く)
- *表彰式及び問題、解答の講評会は11月3日(月・祝)に名古屋大学シンポジオンで行います。

<input type="checkbox"/> 往信	4 6 4 8 6 0 1	名古屋大学 企画広報室内 日本数学コンクール係	名古屋市千種区不老町	ここは参加証となり応募者に返信されるので何も記入しないこと。 (参加証は7月末までに各自に届く予定)
--------------------------------	---------------	-------------------------------	------------	---

<input type="checkbox"/> 返信	ここに必ず、自分の(応募者の)郵便番号、住所、氏名を記入しておくこと。	「日本ジュニア数学コンクール参加希望」と明記する。 郵便番号、住所 電話番号 学校名(フリガナ) 学年 学校所在地(都道府県及び市町村まで) 氏名(フリガナ) 性別 生年月日 保護者氏名 参加希望会場
--------------------------------	-------------------------------------	--

名古屋大学数学公開講座「数学アゴラ」開催

～ 高校生のための現代数学への招き～

受講対象者 高校生(学年は問いません)、参加する高校生が在籍する高校の数学教師

期間 2003年8月4日(月)～8月6日(水)

プログラム

- パズルと数学 - 対称群の世界
 確率論で見る自然現象
 4元数と8元数の世界 - 複素数を越えた宇宙 -
 数の世界(有理数と無理数)

- 庄司俊明 教授
 原 隆 助教授
 菅野浩明 助教授
 谷川好男 助教授

「名古屋大学の学生とのふれあいコーナー」

参加申し込み 2003年7月23日(水)締め切り

主催 名古屋大学大学院多元数理科学研究科

会場 名古屋大学理1号館(多元数理科学研究科)

受講料 無料

問い合わせ先

名古屋大学大学院多元数理科学研究科 数学アゴラ係
 〒464-8602 名古屋市千種区不老町
 電話番号: 052-789-2414
 電子メールアドレス: agora@math.nagoya-u.ac.jp

INFORMATION

本学関係の新聞記事掲載一覧（15年4月分）

	記事	月日	新聞等名
1	名大サロンの主役：福田敏男・先端技術共同研究センター教授「ロボット最新事情」失敗を恐れる必要なし	4.1(火)	中日(朝刊)
2	改革に向けて：西永頌・豊橋技科大学長 COE、本学との統合について話した	4.1(火)	中日(朝刊)
3	病院改革について医学部卒業・上田龍三名古屋市立大付属新病院長に聞く「欠かせない病院改革」を強調	4.1(火)	読売
4	With キャンパス：にっぽんど真ん中祭り 実行委員長・本学4年高嶋舞さん「地域一丸」学生の手で	4.1(火)	朝日(朝刊)
5	「未来への伝言」ノーベル化学賞受賞者名古屋国際フォーラム3人のノーベル化学賞受賞者が語る「好きなことが本質」野依良治教授	4.2(水)	朝日(朝刊)
6	大学評価・学位授与機構による東海3県の国立大学の評価	4.2(水)	読売
7	若い女性おびえと怒り 北区と本学がある千種区の通り魔 新学期目前通学路警戒も	4.2(水)	中日(朝刊)
8	「環境問題への挑戦 - 伊勢湾・濃尾平野から地球環境を考える」を03年度に開講	4.2(水)	朝日(朝刊)
9	水をめぐる問題について 辻本哲郎・工学研究科教授聞く 水資源、使うより残せ	4.2(水)	朝日(朝刊)
10	東海地震予測最前線：福和伸夫・工学研究科教授に聞く 国・自治体で実効性ある対策を	4.2(水)	毎日(朝刊)
11	医学部附属病院で中日花の写真コンテスト入賞作品の展示会	4.2(水)	中日(朝刊)
12	この人：日本天文学会の林忠四郎賞に選ばれた 福井康雄・理学研究科教授 観測施設の移設で学問、人生が豊になった	4.3(木)	中日(朝刊)
13	イラク戦争論考：廣部泉・元本学助教授 言葉のアメリカ化構造 アメリカは過ち修正の能力を持つ	4.3(木)	中日(夕刊)
14	本学修士課程に65歳の大学院生・福田正さんが入学 廃棄物リサイクル研究に励むことに	4.4(金)	読売
15	アップデート：佐久島で大葉邸を見た 茂登山清文・情報科学研究科助教授	4.4(金)	朝日(夕刊)

	記事	月日	新聞等名
16	博物館「失われた文化財」でアフガニスタン・バーミヤン遺跡の調査資料や成果を紹介	4.5(土)	中日(朝刊)
17	関西の2私大立命館大、近畿大「COE プログラム」を見る 平成14年度 COE 採択件数本学は7件	4.4(金)	サンケイ
18	本学とUFJ総合研究所など中部の産学が主導で環境新規格「エコステージ」を設け、認証機関を設立	4.6(日)	中日(朝刊)
19	致死率高まる人食いバクテリア 国は症例公開を急げ 太田美智男・医学部教授は「風邪だと思って、疑ってみる必要がある」と警告	4.6(日)	中日(朝刊)
20	浪川幸彦・多元数理科学研究科長の数楽、数が苦：素晴らしさ分かれば『楽』に	4.7(月)	中日(朝刊)
21	名古屋大 COE「統合テキスト科学の構築」第2回オープン・レクチャー 木俣元一・文学研究科助教授が講演	4.8(火)	中日(朝刊)
22	研究の現状、アトム誕生の可能性を 福田敏男・工学研究科教授に聞いた ロボット今後は『癒し役』にも	4.8(火)	中日(朝刊)
23	研究室発：門松健治・医学系研究科助教授 がんの部位で大量に発現するミッドカイン解明に全力	4.8(火)	中日(朝刊)
24	学生が見た「統一地方選」本学3年・丹羽亜衣さんら3人が候補者追いかけて直撃取材	4.8(火)	中日(夕刊)
25	本学入学式「紛争に問題意識を」と松尾稔学長が呼び掛け「学力低下」の問題にも触れ、「知識増えたが意欲落ちた」と苦言を呈した	4.8(火)	中日(夕刊)
26	With キャンパス：育てフリーペーパー HAFIメンバーのいる本学などの大学を中心に配る	4.8(火)	朝日(夕刊)
27	論文引用率世界ランク 本学は世界99位 国内では5位	4.9(水)	毎日(朝刊) 他3社
28	12日に故高山一男名誉教授のお別れ会	4.9(水)	読売
29	名城大「飛び入学」 附属高校2年・立川浩幹君ら5人、初の女性も	4.9(水)	読売 中日(朝刊)
30	刑務所の受刑者死傷事件に関する集中審議 刑務所医療体制について医学部長を参考人として紹致	4.9(水)	中日(夕刊)
31	バグダッドがついに陥落したがイラク住民の安定には時間を要する 中西久枝・国際開発研究科教授	4.10(木)	中日(朝刊)

	記事	月日	新聞等名
32	弁護士・小野万里子さんが本学でイラクでの体験を報告	4.10(木)	中日(朝刊)
33	医療の現場から：黄斑部の病気、電図装置で機能・形態を診断 三宅養三・医学部教授	4.11(金)	中日(朝刊)
34	二層の炭素ナノチューブ 篠原久典・理学研究科教授らが開発 微細配線などに応用	4.14(月)	日経(朝刊)
35	病気で子どもなくした親たちで作る「ネリネの会」 附属病院で講演会	4.15(火)	中日(朝刊)
36	市に対して市施設の完全禁煙化申し入れをした 市衛生管理医師代表の浜島信之・医学系研究科教授	4.15(火)	中日(朝刊)
37	訃報 後藤幸之助名誉教授 11日肺炎のため死去	4.15(火)	中日(朝刊)
38	いい汗流そう仲間たち:オリエンテering部 山と森の愛好者たち	4.15(火)	中日(朝刊)
39	ほん：東海地震がわかる本 災害対策室編著	4.15(火)	中日(夕刊)
40	With キャンパス：強豪キッズに手ほどき 本学囲碁部	4.15(火)	中日(夕刊)
41	メディアのプロに学べ「メディアアプロフェッショナル論講座」を大学院に開設	4.16(水)	中日(朝刊)
42	朝鮮使節が手作りして日本へ贈った茶杓 山寺秀雄名誉教授宅に添え状などと共に所蔵	4.16(水)	中日(朝刊)
43	イラク戦争論考:変容する中東見取り図 バグダットの陥落の意味するもの 中西久枝・国際開発研究科教授	4.17(木)	中日(夕刊)
44	宮治昭・文学研究科教授が「シルクロード学講演会・観音の道」で講演	4.19(土)	中日(夕刊)
45	県医師会健康教育講座 吉川史隆・医学部産婦人科助教授の「婦人科腫瘍の診断と治療」	4.20(日)	中日(朝刊)
46	難病のモンゴル少年、オユンナさんと来日 名市大で診断	4.20(日) 4.22(火)	中日(朝刊)
47	経済学部2年奥村麻友さん 日本レガッタ 女性シングルスカル準決勝で好タイム	4.20(日)	中日(朝刊)
48	市民大学公開講演会「健康、開発、そして平和」 講師は青山温子・医学系研究科教授	4.22(火)	中日(朝刊)
49	中学生のためのネイチャーウォッチング 博物館主催	4.22(火)	中日(朝刊)
50	親子で楽しむスポーツ教室 大幸キャンパス 対象は小学生と保護者	4.22(火)	中日(朝刊)
51	マタニティセミナー 渡辺一功名誉教授ら講演	4.22(火)	中日(朝刊)
52	産学官連携でセミナー 監査法人トーマツ 武田穰・農学国際教育研究協力センター助教授らを招く	4.22(火)	中日(朝刊)
53	研究室発：蛍光灯代わりにLED 赤崎勇名誉教授に師事した天野浩・名城大理工学部教授	4.22(火)	中日(朝刊)

	記事	月日	新聞等名
54	名古屋市個人情報保護条例に罰則規定の新設を名古屋市個人情報保護審議会(会長・市橋克哉・法学研究科教授)が答申	4.23(水)	毎日(朝刊)
55	文学系総合館7階カンファレンス・ホールで講演会「米英のイラク攻撃と国連憲章」	4.23(水)	中日(朝刊)
56	来年開校の法科大学院 入学説明会に300人参加	4.24(木)	読売
57	法科大学院の説明会始まる 1学年あたり定員80名、トヨタ自動車の法務部長らを客員教授として招く計画を明らかにした	4.24(木)	日経(朝刊)
58	老年学:食事療法が生きがいに 井口昭久・医学系研究科老年科教授	4.24(木)	朝日(朝刊)
59	SARS 治療法、森島恒雄・医学部教授に聞く 早期に適切な治療をすれば治る病気、冷静な対応が肝要	4.24(木)	朝日(朝刊)
60	雑記帳：愛知教育大は24日までに大学憲章を制定した東海三県では本学に次いで2番目	4.25(金)	毎日(朝刊)
61	コーナーキック：ライフ・ヒストリー 老年期の研究などでは、この研究が盛んに 金井篤子・教育発達科学研究科助教授	4.25(金)	中日(夕刊)
62	新型肺炎(SARS)人工呼吸器装置の手引きを医学部附属病院がまとめ、全国40カ所の国立大病院に配布した	4.26(土)	中日(夕刊) 朝日(朝刊)
63	「燃え尽き症候群」の精神状態にある教諭は30人に1人、校長は千人に1人 今津孝次郎・教育発達科学研究科教授が小中3000人調査	4.27(日)	朝日(朝刊)
64	春の褒章810人に 紫綬褒章受章：板倉文忠・工学研究科教授	4.28(月)	中日(朝刊) 毎日(朝刊)
65	地域から環境問題を考えるシンポジウム 柳下正治・環境学研究科教授らがパネルディスカッション	4.28(月)	中日(朝刊)
66	「名大高等研究院」の創設一周年式典・講演会「ナノ炭素材料の科学と応用」と題して飯島澄男・名城大教授が講演	4.29(火)	中日(朝刊)
67	国際法学者の立場から米英のイラク攻撃を検証 本学で講演会	4.29(火)	中日(朝刊)
68	春の叙勲 勲三等:旭日中経章・嘉藤良次郎名誉教授、山口利男名誉教授 瑞宝章・北橋徹・元事務局長	4.29(火)	中日(朝刊)
69	健康:Q「心室性期外収縮の疑い」は重大な病気ですか A 大病まらず心配なしでも検査し安心を 横田充弘・医学系研究科助教授	4.29(火)	読売
70	三菱商事が米にナノテク会社新設 薄型TV基幹部品開発の技術の特許を篠原久典・理学研究科教授と共同出願済	14.11.5(水)	日経(朝刊)

INFORMATION

本学関係の新聞記事掲載一覧（15年5月分）

	記事	月日	新聞等名
1	西春町が6月から学長講座開講 町社外重役の堀内守名誉教授が提言	5.1(木)	毎日(朝刊)
2	高等研究院創設1周年式典 飯島澄男・名城大教授が記念講演	5.2(金)	毎日(朝刊) 他2社
3	中国経済の手引き書を書いた本学院生・俞嶸さん 日中共栄へ「産学連携」期待	5.2(金)	朝日(朝刊)
4	第56回中日文化賞 水の多様性の発現機構の解明 大峰巖・理学研究科教授 「新しい冷凍技術の開発にもつながる」	5.3(土)	中日(朝刊)
5	米科学アカデミーは外国人新会員としてノーベル化学賞受賞者、野依良治教授らを選んだ	5.3(土)	中日(朝刊) 他2社
6	憲法記念日 護憲、改憲派が集会 東海地方でも市民の集いが愛知県憲法会議(事務局長・森英樹・法学部教授)が毎年開いている	5.4(日)	中日(朝刊)
7	「フォールアウト」ファン・ゴンザレス著「9・11」が招いた環境破壊暴く 武田邦彦・工学研究科教授	5.4(日)	日経(朝刊)
8	この人に聞きたい：水田洋名誉教授 アダム・スミスの魅力「他人の同感」重視の道徳論	5.5(月)	毎日(朝刊)
9	明日の人に：講義の質で魅力づくり 元工学部助教授・兼松顕・名城大学長	5.5(月)	読売
10	愛知県犬山市の教育語る会 中嶋哲彦・教育科学研究科教授が「犬山の教育をめいっばい語ります」と題し教育講演会	5.5(月)	中日(朝刊)
11	「研究基盤としての先端機器開発・利用戦略」特別シンポジウム ノーベル化学賞受賞者・野依良治教授らが講演	5.5(月)	日経(朝刊)
12	医学部の外科第二教室 日本初のヘルペスウイルスによるがん治療の臨床実験へ	5.6(火) 5.7(水) 5.8(木) 5.9(金)	中日(夕刊) 他5社
13	この人：磁場の研究で英国王立天文台学士院メダルを受賞する 上出洋介・太陽地球環境研究所長	5.7(水)	中日(朝刊)
14	本年度から大学院に開設された「メディアプロフェッショナル論講座」に 大島宏彦・中日新聞会長が新聞の歩み講義	5.7(水)	中日(朝刊)

	記事	月日	新聞等名
15	訃報 福住一雄名誉教授 6日心不全のため死去	5.7(水)	中日(朝刊)
16	こう見る：奥野信宏・副学長 街と大学、法人化機に連携を	5.9(金)	中日(朝刊)
17	名古屋商工会議所が「知的クラスター創成事業説明会」を開催 高井治・理工科学総合研究センター教授らが講演	5.9(金)	中日(朝刊)
18	訃報 村上一昭名誉教授 7日心不全で死去	5.9(金)	中日(朝刊) 読売
19	浪川幸彦・多元数理科学研究科長の数楽、数が苦 :円周率は3より大きい!?	5.12(月)	中日(朝刊)
20	明日の人に：新たなものに挑戦を元経済学部助手・宮田和明・日本福祉大学長	5.12(月)	読売
21	人気も上々「メディアプロフェッショナル論講座」 本学初の専門職大学院目指す	5.13(火)	中日(朝刊)
22	新型衛生を利用し降水メカニズムを解明する国際プロジェクト 「各国の災害防止にも役立てられる」計画の中心となった中村健治・地球水循環研究センター教授	5.13(火)	朝日(朝刊)
23	名大サロンの主役：「こわれ瓶と処女と死」と題し講演「言葉の解釈、時代で変化」前野みち子・国際言語文化研究科教授	5.13(火)	中日(朝刊)
24	鶴舞「シリコンバレー構想」医学部と名古屋工業大などの研究者が連携して 今秋「医学工学研究所」を発足させる	5.14(水)	中日(朝刊)
26	名古屋大学 COE「総合テキスト科学の構築」オープン・レクチャー 佐藤彰一・文学研究科教授が講演	5.14(水) 5.20(火)	中日(朝刊) 中日(朝刊)
27	被害者サポートセンターあいち会長の蔭山英順・教育発達科学研究科教授に、被害者支援の課題などを聞く	5.16(金)	読売
28	トヨタ自動車など約20社が、本学、名古屋工業大などと セラミック分野の環境対策テーマに研究会	5.17(土)	日経(朝刊)
29	「名大祭」今年も骨髄ドナー登録会	5.17(土)	読売
30	りそな銀行の自己資本比率低下 日本の銀行が生まれ変わるチャンス 家森信善・経済学研究科助教授	5.18(日)	中日(朝刊)

	記 事	月 日	新聞等名
31	難病「球脊髄性筋萎縮症」発症抑える薬 祖父江元・医学部神経内科教授らのグループが発見	5.19(月)	中日(朝刊)
32	理系白書 私の提言:「大学院の自校比率抑えよ」野依良治教授	5.19(月)	毎日(夕刊)
33	天気もとに医療予報 須藤千春・医学系研究科助教授らがシステムの確立を目指している	5.20(火)	中日(朝刊)
34	名大祭のプレ企画 医学部が話題の研究21講座公開します	5.20(火)	中日(朝刊)
35	科学 地震を知る:長期的な黄色信号 継続観測が必要 山岡耕春・災害対策室長	5.20(火)	中日(夕刊)
36	東海地震の巣 駿河湾プレート探查は順調、海底装置からデータ 安藤雅孝・地震火山・防災研究センター教授らのグループ	5.21(水)	中日(朝刊)
37	名古屋工業大が本学医学部などの研究者らと協力して医工融合分野の新産業を目指す「医学工学研究所」の創設準備説明会開催 大島伸一・医学部附属病院長らが講演	5.21(水)	中日(朝刊)
38	名古屋刑務所事件 放水による死亡、二村雄次・医学系研究科教授「疑問を持っていた」	5.21(水)	読売 他2社
39	老年学:私の「瞬間的うつ体験」 井口昭久・医学系研究科老年科教授	5.22(木)	朝日(朝刊)
40	ノーベル賞候補、理学部出身の岸義人・ハーバード大学教授が名城大のオープンセミナーで講演	5.22(木)	中日(朝刊)
41	野依良治教授らノーベル化学賞の3氏ら 21日開かれたシンポで先端機器「もっと日本で」と先端機器の自前開発推進を国などに求める決議をした	5.22(木)	朝日(朝刊) 日刊工業
42	内閣府と国土交通省中部地方整備局が名古屋圏防災検討へ委員会を設置すると発表委員長は松尾稔学長	5.22(木)	朝日(朝刊)
43	レーザー:学生に喜びと励み 平野眞一・工学研究科・工学部長	5.23(金)	日刊工業
44	コーナーキック:機械と感情 森田美弥子・教育発達科学研究科教授	5.23(金)	中日(夕刊)
45	東海地震 防災、生活の知恵の一部に 山岡耕春・災害対策室長	5.25(日)	中日(朝刊)
46	バイオなどの最先端の研究機器「弱い日本勢」に警鐘 野依良治教授ら	5.26(月)	日経(朝刊)

	記 事	月 日	新聞等名
47	「イラク攻撃について若者が語り合う会」本学の学生ら20人が出席	5.26(月)	中日(朝刊)
48	座談会「名古屋の街づくり」と名古屋の明日について、奥野信宏・副学長らが語り合った	5.27(火)	毎日(朝刊)
49	人気高まる社会人入学 大学でもう一度学び直す 環境学研究科修士課程1年・栗田暢之さん「市民に伝えやすい科学データを学ぶ」	5.27(火)	中日(朝刊)
50	204と9の断層 ノーベル賞の風土:日米の風土そのものに違い 日本人受章者は野依良治教授など9名となぜこれほど極端に少ないのか	5.27(火)	サンケイ
51	科学 地震を知る:前兆とらえ早期警報へ 年々高まる発生の確率 藤井直之・地震火山・防災研究センター長	5.27(火)	中日(夕刊)
52	学長選考 法人化前に暫定措置 現学長3選出馬容認へ	5.28(水)	中日(朝刊)
53	新型肺炎 SARS に全学対応 「SARS 緊急対策委員会」を設置	5.28(水)	中日(朝刊)
54	東海地震 今回と同じ震度6弱でも被害の程度は違ってくる 安藤雅孝・環境学研究科教授が予測	5.28(水)	日経(朝刊)
55	医学部附属病院、ヘルペスウイルス乳がん治療 患者に退院許可	5.28(水)	中日(夕刊)
56	訃報 瀧沢隆幸名誉教授 27日腎不全のため死去	5.28(水)	中日(夕刊)
57	中日文化賞、大峰巖・理学研究科教授ら5氏に贈呈	5.29(木)	中日(夕刊)
58	博物館パーミヤン展 流出した文化財資料と実物展示	5.29(木)	日経(夕刊)
59	訃報 小林快三名誉教授 29日呼吸不全のため死去	5.30(金)	中日(朝刊)
60	東海地震対策大綱 「愛知県に最大被害をもたらすのは東海、東南海連動型」福和伸夫・工学研究科教授 医学部附属病院は、柔軟に対応する方針	5.30(金)	朝日(朝刊) 毎日(朝刊)
61	アップデート:アートの本を読もう 茂登山清文・情報科学研究科教授	5.30(金)	朝日(夕刊)
62	講演会「健康・開発・ジェンダー~私たちは何ができるか」BPW 中部ブロック研究会など主催 青山温子・医学系研究科教授	5.31(土)	朝日(朝刊)



平成14年度 職員創作美術展 作品紹介

- 陶 芸 -



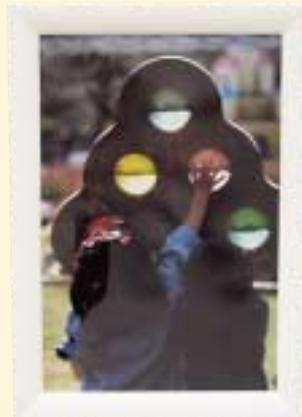
- 俳 句 -



- 手工芸 -



- 写 真 -





- 絵手紙 -



本誌に関するご意見・ご要望・記事の掲載などは企画広報室にお寄せください。

総務部 企画広報室 企画広報掛

電話：052（789）2016

FAX：052（789）2019

E-mail：kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

農学部第一回卒業記念樹

学内も鮮やかな緑いっぱい彩られる時期になりました。とくに東山キャンパスに緑が多いのは、建設当時はこのあたりがまだ名古屋市街地から郊外にあたる山の中であったことと、これに着目した澁澤元治初代総長が提唱した「緑の学園」構想によるところが大きいものと思われます。この「緑の学園」に寄与している中に、学内に植樹されたさまざまな記念樹があります。そのなかで今回は農学部第一回卒業記念樹をご紹介します。

農学部の創立は1951年です。名古屋大学九学部のうち、1949年の新制大学設置より後に創立された唯一の学部です（1993年創立の情報文化学部は旧教養部に源泉をもっています）。しかも名古屋から遠く安城に学部キャンパスが造られました。当時は理・工学部以外の学部は東山キャンパスにありませんでしたが、それでも名古屋市内にあり、農学部だけが名古屋市外にありました。このため農学部関係者はいろいろな不自由さを感じて生活していました。第一回卒業記念樹は、1955年にこの旧安城キャンパスに植えられました。樹種はメタセコイアです。

そして1966年農学部の東山移転とともに、現在の地に移植され、今に至っています。移転に際し、記念樹も一緒に移植するのは珍しくはないのですが、そのなかでもこの第一回卒業記念樹が選ばれたのは、学部創立や安城生活に対する農学部のさまざまな思いを後世にも伝えようとしたのではないかと思います。またそれが樹であることも、いかにも農学部という気がします。この樹は『名古屋農学部三十年史』や『名古屋大学五十年史 部局史二』に掲載されたほか、一昨年刊行された『名古屋大学農学部五十年史』では、その葉のデザインとなっています。ある意味農学部が一番古い歴史・伝統を伝える象徴的な記念物と思われます。



現在のメタセコイア



現在の記念碑



植樹当時の幼木（安城キャンパス）



東山キャンパス



50周年記念誌の葉

名古屋大学の歴史に関する記念碑・記念物に関する情報をお持ちでしたら、
大学史資料室（052-789-2046、nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp）へご連絡下さい。